令和5年度　奈良県立奈良東養護学校　学校評価総括表（案）

【特別支援学校用】

年度	令和５年（計画２年目）
教育目標	◇児童生徒一人一人の人格や人権を尊重し、個々のニーズに応じて適切な指導及び支援を行い、その可能性の伸長に努める。 ◇自立と自律を目指して、主体的創造的に学ぶ力や考える力を育み、心豊かに生きることのできる人間育成に努める。

運営方針	＊児童生徒の可能性を高めるため、専門性・教育力・教師力の向上を図り、一人一人が各自の職責を果たし、チーム力の向上を図る。 ＊児童生徒の人格や人権を尊重し、一人一人のもてる力を最大限に高めながら１２年間を見据えた成長　・発達を促していく。 ＊児童生徒一人一人の命を守る安全で安心な学校づくりを進める。

奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策（案）
１．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	生涯において心身ともに健康な生活ができる児童生徒を育てる。	年３回程度、保健・安全に関する教員向けの研修を企画する。	心肺蘇生法の研修、食育研修、アレルギー（オンライン）、アレルギー対応（シミュレーション）、4つの研修を	左記の目標値を達成することができた。	実技研修や教員からのニーズを取り入れた研修を行い、教員のスキルや知識を向上させることができた。	・発達障害や軽度の生徒への指導力を高めてほしい。	・継続して取り組む。
	各学部や児童生徒の実態に応じた性教育を進める。	各学部や児童生徒の実態に応じた性教育を一層進めるため、完成した「こころとからだセルフプラン」を使って指導を行う。	完成した「こころとからだセルフプラン」を活用して指導を行う。	完成した「こころとからだセルフプラン」を活用して全学部で指導することができた。	特に小から中、中から高に学部が変わった生徒の引き継ぎで有効に活用することができた。	・生徒の実態が変わってきているのではないか。継続して取り組んでほしい。	・継続して取り組む。
２．学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	主体的、対話的で深い学びに向けた授業の改善を図る。	年３回程度、特別支援教育の専門性向上を目指して、校内から講師を選出あるいは外部講師を招聘しての研修を企画する	全体研修と２回の自主研修を実施し、教員の専門性の向上を目指す。	左記の目標値を達成することができた。	外部講師を招聘し、グループ討議や事例検討を交えた研修を行う中で、教員の専門性の向上につなげることができ	・継続して取り組んでほしい。	・継続して取り組む。
	評価の三観点を意識した授業づくりに取り組む。	・三観点を意識しやすいような様式での指導案等を作成する。 ・教育課程検討委員会（４回程度）、作業部会、研究部会、教務部会において、 ①個別の指導計画で三観点のよりよい反映方法の検討 ②評価と指導の一体化について検討 を行う。	・三観点を意識しやすい指導案の様式の提案を年度末までに行う。 ・個別の指導計画の三観点を反映させる方法を提案する。 ・一つの教科を選択し、評価規準の例を作成する。	・新様式の指導略案を提案し、それぞれが作成した指導略案を学部教研などで検討した。三観点を意識して作成できるよう「目標設定、評価の三観点について」の資料の活用を提案した。 ①校務システムの変更に伴い、三観点を反映する個別の指導計画の記入方法を提案した。年度内に方向性を決め、来年度実施する予定。 ②音楽を例に学習指導要領から各段階別に単元別の目標を作成した。評価規準を検討し、指導案に盛り込むことは次年度に実施する。	①②畿央大学の山根准教授に指導をいただくことで、作業部会の中では方向性を確認し、議論を前に進めることができた。学校全体に浸透させていくため、来年度、研究テーマを全校で行う方向である。作業は遅れがちであるが、一定の成果を納めることができた。	・「しごと」の授業では、生徒が「体験」したことや「わかったこと」を、作業を進める中で「表現」できている場面が多くみられる。また、その作業を奈良東応援団へ自分から「すすんで伝える」ことができている。 ・三観点と個別の指導計画のつながりを強化してほしい。	・継続して取り組む。
	GIGAスクール構想の推進を図る。	・Google Workspace for Educationを活用して指導を行った教員の割合70%以上 ・大型提示装置（モニター・電子黒板等）を活用して指導を行った教員の割合70%以上	・Google Workspace for Educationを活用して指導を行った教員の割合50%以上 ・大型提示装置（モニター・電子黒板等）を活用して指導を行った教員の割合50%以上	今年度、授業を担当した教員へのアンケート調査の結果（n=89） ・Google Workspace for Educationを活用して指導を行った教員の割合78% ・大型提示装置（モニター・電子黒板等）を活用して指導を行った教員の割合92%	・設定した目標値については達成しており、引き続き、教員による授業でのICT活用の充実と効果的な事例の収集に努めていく。 ・児童生徒がICTを活用した学びの充実について、事例の共有等により推進していく。	・授業でchromebookを利用している教員が増えている。PowerPointを使用して作成している教材が多い。	・教員が個人で持っている教材のデータを集めて整理し、学校全体の共有教材として活用できればよい。
	地域の社会資源を有効活用と活動を通して、キャリア発達を促す機会を創出する。	進路体験学習の実施 中２：１回／年 高１：２回／年　高２：基本３回 職場実習 中３：１回／年　高３：３～５回	進路体験学習は中２,3で１回、高１で２回、高２で３回、職場実習は高３～５回実施した。	中２、３、高１の進路体験学習は、グループに分かれて複数の事業所で実施することができた。高２、３の体験や職場実習も実施できた。	実際に事業所での体験、実習ができたことで生徒の働くということへの意識づけや、卒業後の進路に対する自覚を高めることができた。	・喫茶や機織りなどの「仕事」を通して、生徒が奈良東応援団に主体的にかかわる場面があった。	・継続して取り組む。

３．働く意欲と働く力をはぐくむ	本人や保護者のニーズに応じた進路指導の充実	進路説明会　年間１～２回開催 進路懇談会は必要に応じて随時行う。	進路説明会は２回実施した。 進路懇談会は必要に応じて行った。	中学部では中1の説明会、高等部では高１対象に動画配信と対面とで２回の進路説明会を実施した。 進路懇談会は個々に必要に応じて随時行ったり期間を設けたりして実施することができた。	進路指導の進め方や福祉サービス、事業所の紹介などをすることで、卒業後の生活へのイメージをもってもらい、個々のニーズに合った進路指導に繋げることができた。	本人や保護者への支援は重要であるのでが、卒業後の進路先としては、生徒の特性に合った仕事をもっと作り出していくことが大事だと思う。	・継続して取り組む。
４．地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティスクールの運営・推進	年２回の協議会開催 各部会での活動を２学期に実施	協議会の実施。各部会での活動の実施。	・左記の目標値を達成することができた。	高等部において、地域協働部会の活動を複数回実施することができた。	・今後も活発な話し合いの場を継続する。	・来年度2学期に防災部会と地域協働部会の場を設定する。
	地域と連携・協働し、地域に開かれた教育活動に取り組む。	·奈良東応援団の方々と協働で、地域清掃や校内環境整備に取り組み、地域に根ざした学校へ向けて連携を深める。 ・奈良東応援団の方々に授業に参加していただき、協力を仰ぎながら啓発も促す。	・奈良東応援団の方々と協働し、通学路清掃や校内環境整備を実施した。 ・奈良東応援団の方々に高等部の授業に参加していただき交流を深めながら、本校の教育活動について理解啓発を図ることができた。	・左記の目標値を達成することができた。	・地域の方にとって身近な学校へと近づけていくきっかけを作ることができた。 ・授業に参加していただき、指導補助の立場で助けていただくことができた。さらにノウハウを享受することと本校の理解啓発を促すことができた。	・（「奈良東応援団」として授業に参加していただいている方より）生徒が「おばちゃん、ここはこうするんやで」と自分から作業を教えてくれる。参加していて本当に楽しい。	・2学期に地域協働部会を開催し、教員と奈良東応援団とのさらなる連携を図る機会にする。
	地域の防災訓練等に参加し、災害時に備える。	・六条地区との合同防災訓練の実施 ・校内避難学習（地震火災避難学習、火災避難学習）を年間２回、スクールバス避難学習を年間１回実施する。 ・警察との協同学習として生活安全学習も年間１回行う。交通安全教室や自転車安全学習を年間１回ずつ行い、安全に対する意識を高める。 ・教員の防犯意識を高めるためにも、職員防犯研修を年間１回実施する。年回６回行う単通生通学路清掃を通して地域の方とも連携し、児童生徒の様子に目を掛けてもらうようにする。	・校内避難学習を年間２回、スクールバス避難学習を年間１回以上実施する。 ・生活安全学習等を１回実施する。 ・職員防犯研修を１回実施する。 ・単通生通学路清掃を６回以上実施する。	・左記の避難学習や安全学習を計画的に実施できた。 ・防犯研修も実施し、不審者対応の具体的な方法を実践できた。 ・清掃活動では、地域の方と交流を深めることができた。	・合同防災訓練では、その直前に地域の方々に避難場所となる体育館の清掃を行っていただき、校舎の配置等を各確認していただくことができた。 ・避難学習や安全学習を実施し、児童生徒の安全に対する意識を高めることができた。 ・職員防犯研修でも、学校安全に対する理解を深められた。 ・通学路清掃では、清掃を通して地域の方と交流できた。	・養護学校の在校生、卒業生とその家族は、福祉避難所となった養護学校へ直接避難ができることを本人とその家族は知っているのか。 ・備蓄品の量が圧倒的に不足している。	・避難所設置に向けて、奈良市や地域の自治会などと連携していく。
５．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	地域に貢献する特別支援教育のセンター的役割を推進する。	学校見学会12回、体験学習20回、進学相談４回/年実施	各学部で見学会・体験会、進学相談を実施	・左記の目標値を達成することができた。	見学会や体験学習、相談会を通して就学・入学に繋げることができた。	・地域の課題を見極めて、関わってほしい。	・地域と連携しながら継続して取り組む。
	お互いの違いを認め合い、いじめを許さない態度を育成する。	・４月の職員会議で、「個人別生活カード」の説明をしたり、「いじめ防止対策推進法」や「学校いじめ防止基本方針」の周知を図ったりする。 ・高等部の生徒に対して記述式の「こころといじめアンケート」を実施し、いじめの有無を調査すると共に、教員に対しても「いじめを早期に発見するために実施している取り組み」についてアンケートを実施し、児童生徒の表情や様子の変化に目を配り、複数の目で実態に応じた指導をお願いする。 ・アンケートを回収し内容を分析し、問題があった場合は個別に対応する。	・職員会議において、個人別生活カードやいじめの防止について周知を図る。 ・いじめアンケートを１回以上実施し、問題点について検討する。 ・実態に応じて人権意識を高める取り組みを実施する。	・職員会議において、個人別生活カードやいじめ防止について呼びかけた。 ・いじめアンケートを実施し、事象が起こった場合は早期に発見する体制を整えた今年度、いじめ報告はなかった。 ・実態に応じて人権学習、集会等を実施し人権意識を高めることができた。	・職員会議でいじめ防止について周知することができた。 ・生徒と教師にアンケートを実施し、いじめの早期発見と複数の教師の目で見て指導するという意識を持ってもらうことができた。 ・人権学習を定期的に実施することにより教師集団の人権意識の高まりと指導力の向上が感じられた。	・「本校ではいじめはなかった」とのことだが、引き続き見えていないところも探りながら子供たちの指導に当たってほしい。	・継続して取り組む。

３　評価結果の分析、今後の改善方策等

おおむね目標を達成している。改善方策のとおり、今後も継続して取り組んでいく。